

今年は丑年

今

年は丑年。牛は、十二支の二番目、偶てい目反すう類ウシ科の動物です。胃が四つあって反すうすることはよく知られています。

家畜としての牛には役牛、肉牛、乳牛などがあります。日本でも戦前は、農耕や運搬などに盛んに役牛が活躍していましたが、最近では、そうした風景はあまり見かけなくなりました。家畜以外の牛には野牛、水牛などがあります。牛が家畜として飼われたのは、新石器時代あたりが起源といわれています。日本でも、縄文時代に牛が飼われていたという説があります。牛車は平安貴族の乗り物で、今も雛まつりの雛段に飾られています。

わたしたちが牛と聞いてイメージするのは、牧場の風景によく似合う白と黒の乳牛ホルスタインで

はないでしょうか。また、年賀状などの干支のイラストに登場するのは茶色の牛が多いようです。

人

との付き合いが長い牛は、ことわざにもよく登場します。一番よく知られているのは、「食事をしてすぐ寝ると牛になる」ではないでしょうか。昔は行儀の悪い子をしかるときに親がよくこの言葉を使っていたものです。最近も、食後にあわてて動くよりも、寝ころんだほうが消化にもよいといわれ、この言葉はあまり聞かれなくなりました。

牛

「馬にまじりたる牛」は、能力の劣ったものがまじっているということ。「馬に乗らねば牛に乗れ」は「次善の策」というような意味で使われます。どうやらことわざの上では、牛は馬に引けを取っています。

「牛歩戦術」は、牛がのろいことからきたもの。「牛のよだれ」は、だらだらしていることと思われませんが、「商いは牛のよだれ」という言葉もあり、細く長く辛抱するのがよいということのようです。「男と牛の子



和

は急ぐものではない」とも、牛のようにゆったりと構えよということ。牛人気により、最近各地では肉牛の飼育が盛んに行われており、地域おこしにひと役買っています。昨年は狂牛病問題などで、牛にとっても受難の年でしたが、今年はおいしい牛肉をたっぷり食べられるといいですね。

ところで、証券業界には「ブル」という言葉があります。ブルとは雄牛のこと。ブルと雄牛のことで、積極的な取り引きのことをいいます。今年こそ景気の低迷から脱出したいものです。



正月の子供になって見たきかな 一茶『寛政紀行書込』

昔の子どもは、もういくつ寝るとお正月……と楽しみに指折り数えて待ちました。元旦には家族そろってお雑煮のもちを年の数だけ食べ、男の子はたこ揚げ、女の子は羽根つきなどをして遊んだものです。

しかし、「最近の子どもの正月の最大の楽しみはお年玉」という小学校の先生の話聞いたことがあります。もらったお年玉を電卓で計算しテレビゲームなど買いにいくのでしょうか。

正月

また、最近では各家庭で門松を立て、若水をくみ、年神を祭るなどの正月行事はあまり行われなくなり、元旦をバック入りの雑煮で祝う程度の家も増えました。

一方、各地の初もうではにぎわい、相変わらず年賀はがきは人気があるようです。写真を取り入れたり、カラープリンターで作成したりするなど、年賀状も多様化しています。近い将来パソコンのメールによる年賀状も珍しくなくなるでしょう。

今年こそ日記をつけようとか、たばこをやめようなどと、それ

人の動き

平成8年11月30日現在
()は前月対比

男	3,094人	(+8)
女	3,656人	(-2)
総人口	6,750人	(+6)
総世帯	2,182世帯	(+2)



それぞれの誓いをたてて新年を迎える気持ちは今も昔も変わらないようです。今年も平穏な暮らしを、というのがみんなの願いです。